令和７年度　第４回　国立大学法人奈良国立大学機構理事長選考・監察会議議事要旨

日　時　　令和８年３月１３日（金）１５時００分～１６時０３分
場　所　　奈良国立大学機構第一会議室
出席者　　國枝委員、松本委員、近藤委員、村岡委員、北岡委員、
　　越野委員、今委員、和田委員、吉田委員、酒井委員、遊佐委員
欠席者　　鈴木委員
列席者　　青山監事、大久保監事
事務局　　三谷事務局長、沓澤事務局次長、向機構総務課長、矢倉奈良教育大学総務課長、
　　林機構総務課課長補佐、隈井機構総務課総務係員
議　長　　松本委員

議事に先立ち、前回会議の議事要旨を確認し、これを了承した。

審議事項

1．理事長の業務執行状況の確認について

議長から、前回実施した、「理事長の業務執行状況の確認」のためのヒアリングに対し、各委員からその内容を踏まえた意見を聴取し、議長として、資料１「業務執行状況の確認結果（案)」のとおり取りまとめた旨の説明があった。

審議の結果、原案のとおり承認した。また、参考資料１の「理事長の業務執行状況の確認に関する基準」第２条第５項のとおり、理事長へ通知するとともに、奈良国立大学機構ホームページにおいて公表し、全ての教職員が閲覧する学内電子掲示板においても報告する旨の説明があった。

２．次期理事長候補者の選考に向けて

議長から、榊理事長の任期は令和７年度から３年間であり、２年の任期が残っているものの、バトンタッチ時には次期候補者が組織のことを理解・熟知し継続性を保てるよう準備しておくことが望ましいことは、本会議の構成員間で共通認識ができているのではないか、との見解が示された。その上で、本日はまだ選考に入る段階ではないものの、次期理事長候補者の選考に向けて、可能な範囲で意見交換を行いたいとの提案があり、事務局から、論点として以下の２点が提示された。

①理事長の任期に関しては、現行の規程では３年となっているが、安定的な運営の観点や、大学総括理事及び学部長等の任期（２年）との関係を踏まえると、６年もしくは４年＋２年にすることが考えられるのではないか。

②選考の開始時期については、理事長の意向も踏まえる必要があるが、組織を十分に理解した状態での円滑なバトンタッチを図る観点から、来年度早々に選考に向けた検討や候補者の探索を開始する必要があるのではないか。

委員から、理事長の任期について、学長任期（２年）を踏まえた場合には偶数年とすることが望ましいことに加え、時代の変化への対応の観点からも、「４年＋２年」とすることが合理的ではないかとの意見があった。

また、資料３「理事長選考基準」について、委員から、基準１の「国立大学法人の最高経営責任者にふさわしく、人格が高潔で、教育や学問研究に対する優れた識見を有する者であること」に、「社会における大学の役割」の観点を加えてはどうかという意見や、「社会における大学の役割」は、基準２の「急変する時代や社会の動向を的確に捉え」と結び付けた方が良いとの意見があった。また、これらに対し、「社会におけ

る大学の役割」は環境要因に左右されない基本的な考え方であることを示すため、前文に盛り込む方が良いのではないかとの意見があった。さらに、2040 年を見据えた第５期中期目標・中期計画の検討も踏まえ、機構として両大学を融合したミッションを踏まえた内容を基準に盛り込んではどうかとの意見があった。このほか、教育者及び経営者としての高い識見を併せ持つ人材が望ましいものの、そのような人材の確保は容易ではなく、大学によっては学問・教育を担う学長と、経営を担う理事長の役割を分担している場合もあるとの意見があった。

意見交換の結果、今回出された意見については事務局で整理し、今後の検討の参考とすることとなった。

３．その他

特になし

以　上